



うさびよん

次は②の質問！ 約10か月働いて、心に残ったことはあるかな？

Aさん

上司においしい食事をたくさんご馳走していただいたことと、各課室から要望のあった物品を調達し、当庁の円滑な職務遂行に資することができたことです。

Fさん

どのように仕事を進めたらいいのかなと悩んでいたときに、上司や先輩から親切にアドバイスを頂き、そのアドバイスを元に試行錯誤を繰り返したことで、成長につながり、上司や先輩から少しずつ信頼されるようになったと思います。

失敗を恐れず、チャレンジを続け、成長へつなげることが大切だと思いました。

Cさん

初めて身柄事件(逮捕勾留が必要な事件)を受理した際、上司に丁寧に受理できている、見やすかったとのお言葉をいただけたことです。以来、事件を受理する度に上司から頂戴したお言葉を思い返し、丁寧かつ正確な仕事をすることを心掛けています。

また、様々な経験を積んでほしいと、医療観察や実刑収容に携わらせていただいたことです。私は検務部門の事件令状担当として職務に従事していますが、自分が受理手続きに携わった事件、事故が報道されているのを見る度に、事件令状担当としてのやりがい、職務の重要性を実感しています。

Dさん

自分の担当業務だけでなく、他の担当業務とのつながりがあり、他の部門の方々と話す機会が多く、職員間の仲がとても良いと感じました。

また、1年目から事件の現地調査や関係者との面談等の責務を負う業務を経験できることは、やりがいのある魅力的な職場だと感じました。

Eさん

初等科研修に参加させていただいたことです。

初等科研修は、法律の知識を深めるだけでなく、他県の検察事務官の人たちと交流ができ、研修後も連絡を取ったりして、仕事をもっと頑張ろうというモチベーションに繋がっています。

※初等科研修：検察事務官が採用当初に受ける研修で、令和7年度は4月20日から5月23日までの間、法務総合研究所浦安総合センターにおいて、東京高等検察庁管内と高松高等検察庁管内と合同で実施されました。

Bさん

3つあります。

初等科研修は職員としての学びもありつつ、他地検の同期とも親交を深め、プライベートでも夏休みに遊びに行く程の関係になりました。

仕事の事で悩んでいたとき、先輩にご飯に連れて行ってもらって元気をもらったことです。

勉強してきたことが、実務を通して実感できていることです。